

あす 未来へ

発行/龍ヶ崎市 編集/総合政策部企画課
〒301-8611 龍ヶ崎市3710番地
TEL 0297-64-1111(代表) 内線363 FAX 0297-60-1583
URL <http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/>
E-mail kikaku@city.ryugasaki.ibaraki.jp



授業風景/城ノ内小学校



学童保育ルーム/長山小学校



龍ヶ崎市 政策情報誌

常磐線佐貫駅駅名改称の延期と今後について

P2~P3

お米スイーツで街歩き! 「体験型観光」の開発へ

P4~P5

龍ヶ崎市の空家等の実態についてお知らせします

P6~P7

龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会がスタートしました!
龍ヶ崎市教育振興基本計画の策定を進めています

P8



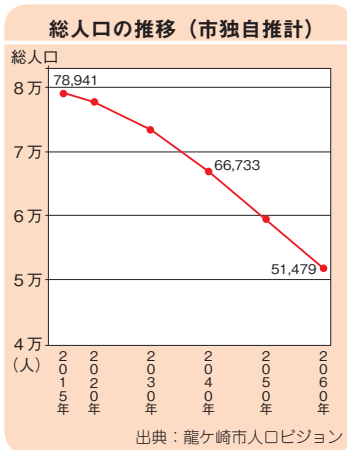
2016.8
第20号



常磐線佐貫駅 駅名改称の延期と今後について



■問い合わせ：企画課地域戦略グループ☎内線 361



我が国は、既に人口減少社会に突入しています。当市はいわゆる「消滅可能性都市」には該当しないものの、現状のまま推移した場合は、2060年には人口が5万人台に減少すると推計されています。急速な高齢化を伴う人口減少は、地域経営を妨げる要因と考えられます。何の手立てを講じることなく当市の人口減少が本格化した場合、まちのにぎわいや活力が失われ、それが繰り返される負の連鎖に陥りかねません。当市においても、人口流出に歯止めをかけ定住を促進するため、持続可能な地域経営を確立するための取り組みが求められています。

駅名改称の必要性

広報紙『りゅうほう』7月後半号でもお知らせしましたが、平成29年4月1日を目指して進めてきた「常磐線佐貫駅駅名改称」の改称時期を延期しました。しかし駅名改称は、将来にわたって持続可能な地域経営の基盤を構築するための有効な事業であることに変わりはありません。ここでは、改めて市民の皆さんに駅名改称の必要性などについてお知らせします。

当市の地方創生の目標の一つに、「定住促進」による人口減少の抑制があります。そのためには当市を知ってもらうこと、つまり認知度向上を図るためのシティプロモーション活動が重要となります。



しかし、当市の位置関係が知られていない、そもそも当市の存在自体が知られていないという状態にあり、せっかくの魅力がなかなか伝わらない状況にあります。そもそも認知度が低い状態のままではイメージアップ策を展開しても、その効果は限定的と考えられます。つまり効果的な認知度向上策が重

要で、その有効な手段の一つが「常磐線佐貫駅の駅名改称」というわけです。主要幹線鉄道の駅に自治体名を冠することは、当該自治体の認知度向上に有効と考えられます。改称後は、都内の主要駅や常磐線の車内で毎日「龍ヶ崎市」とアナウンスされ、切符売り場の路線図にも「龍ヶ崎市」と掲げられることなどから、その効果は大きく、継続性も高いと考えられます。

さらに、当市の玄関口である佐貫駅周辺地域のポテンシャルを生かし、玄関口にふさわしいにぎわいを創出するとともに、龍ヶ崎市街地における活性化の取り組みやさまざまなソフト・ハード事業を織り交ぜながら、地域経営の好循環を形成し、持続可能な地域経営の基盤を構築することが必要です。駅名改称は、それらの取り組みの重要な事業となるものです。

これまでの取り組み経緯

このような効果が見込まれる駅名改称ですが、その事業推進においては、「事業費の軽減」と市民の皆さんの機運の醸成が重要です。このため、駅名改称費用が最も削減できる時期の検討や削減額の試算について、平成26年8月に東日本旅客鉄道株式会社（以下「JR東日本」）水戸支社に依頼書を出しました。12月には、「政策情報誌（第13号）」で人口減少社会における持続可能な地

域経営の基盤の構築のため、常磐線佐貫駅名改称の必要性や有効性・駅名改称に関する影響度調査の結果などをお知らせしました。

平成27年3月には、駅名改称時期を消費税の税率改正時期である平成29年4月とすることで、最も費用を削減できる見込みであること、そのためのスケジュールや諸手続が判明しました。この費用削減効果を享受するためには、早々に手続を開始しなければならぬものであったことから、至急、市民の皆さんにお知らせしなければならぬと考え、「政策情報誌」（平成27年5月／第15号）で駅名改称費用やシミュレーション効果などをお知らせするとともに、5月24日と6月6日に意見交換会を開催し、延べ350人を超える方に参加していただき、さまざまなご意見をお聴きしました。

これと並行してJR東日本水戸支社との調整も進めていきましたが、平成29年4月の駅名改称とするためには、平成27年5月に当市から「計画協議」を申し入れ、「覚書」を交換する必要があったことから、5月19日に覚書を交換しました。

※覚書は、平成29年4月の駅名改称に向けて正式な協議を開始するための事務手続の一つで、「駅名改称について、お互い協力して円滑に進める」ことについての合意であり、事業の実施や新駅名・費用などを決定するものではありません。

平成27年6月の市議会定例会では、本件事業を実施するための協定締結に必要な予算の裏づけ（担保）となる債務負担行為限度額3億2900万円を含む予算案を上程し、可決されました。当該可決をもって、一定の合意形成がなされたこと判断の上、6月26日に新駅名候補を「龍ヶ崎市」駅他2案とする常磐線佐貫駅の名称に係る「要望書」をJR東日本水戸支社に発出し、8月に新駅名は「龍ヶ崎市」駅にすることに合意しました。

その後、8月19日に「施行協議書」を发出了しました。施行協議は、「常磐線佐貫駅名改称事業を実施したいので協議します」との内容であり、言わば本件事業に係る当市の最終的な意思表明です。その後、JR東日本水戸支社との調整・市内部の事務処理を経て、9月9日付けで協定を締結したところです。

この協定により、事業費の削減が最も見込まれる消費税率改正時の平成29年4月1日の改称を目標に、駅名改称することが正式に合意されたところと合意されたところとです。

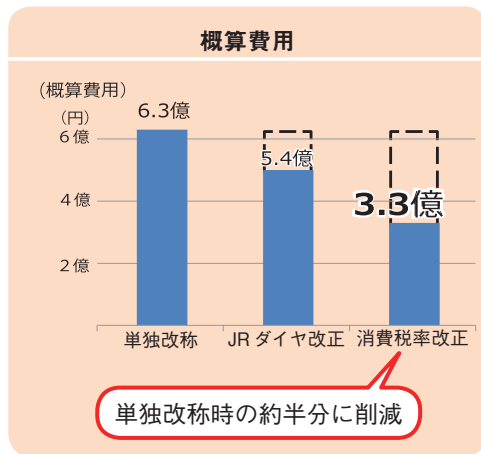


▲意見交換会の様子

駅名改称の延期

本年6月1日に消費税率改正の先送りが表明されたことにより、駅名改称の前提条件が大きく変化しました。当市では、消費税率改正の先送りの観測報道などを踏まえ、JR東日本水戸支社とその対応について協議を行ってききました。

その結果、予定のとおり平成29年4月1日とする場合、当初見込んだ事業費の負担を大きく上回ることが明らかとなりました。



これまで市民の皆さんに説明してきた「事業費軽減のメリット」を得られない状況を勘案し、残念ですが、駅名改称の時期を先送りせざるを得ないと判断しました。

今後に向けて

繰り返しになりますが、当市の玄関口である常磐線の駅名に自治体名を冠することの重要性や、期待される効果は何ら変わるものではありません。駅名改称の実現に向けて、先送り後の消費税率改正時期などを改称時期の候補として、JR東日本水戸支社と協議中です。協議の進捗状況などはその都度お知らせします。

なお、佐貫駅周辺地域のにぎわいを創出するためには、さまざまな取り組みを効果的に実施し、相乗効果を大きくしていくことが重要です。そのため、目指すべき方向性を共有しながら、駅名改称と同様に、当市の将来にとって重要な「道の駅」整備事業・佐貫駅東口広場整備事業・都市計画道路佐貫3号線整備事業などのハード事業と、6月27日にオープンした「駅前こどもステーション」の運営などのソフト事業をパッケージ化して、引き続き佐貫駅周辺地域のにぎわいづくりに努めます。これらの事業内容や本年度の予定については、広報紙「りゅうほー」7月後半号4・5ページをご覧ください。



平成 28 ～ 30 年度
流通経済大学との「龍・流連携事業」



「体験型観光」の開発へ

■問い合わせ：シティセールス課シティセールスグループ ☎内線 376



流通経済大学社会学部国際観光学科・東美晴教授の授業で、学生が「龍ヶ崎のおいしいお米を使ったお菓子」でまちおこしができないかを3年間かけて研究し、その研究内容をもとに体験型観光のプログラム開発を目指しています。

事業の背景

龍ヶ崎は伝統芸能をはじめ、工芸品や農産品・歴史的建造物・豊かな自然環境・景観など、他に誇れる地域資源を数多く有しています。

これらの地域資源を観光資源と捉え観光に活用するためには、市民の皆さんがこれらの地域資源を龍ヶ崎の魅力と感じていただくことが必要です。

そのため、まず市民の方々を観光客と捉え、身近な地域資源を楽しく学び・体験できる観光プログラムを開発し、実践することが、龍ヶ崎における観光の第一歩だと考えています。

目的・効果

学生がプログラムを開発することにより、若い外部視点でこれまで気が付かなかった龍ヶ崎の魅力を発見できる可能性があります。また、学生自身も龍ヶ崎を深く知るきっかけとなり、これまで以上に龍ヶ崎への理解や愛着に繋がることを期待できます。

また、開発されたプログラムを事業化することで、市民の郷土愛を醸成し、地域の活性化が図られることも期待されます。

スケジュール

1年目

学生が龍ヶ崎を知る機会として、地域資源の一つである「米」に着目し、観光プログラムを開発します。

2年目

1年目で開発したプログラムを学生向けに実施し、課題の整理を行い、プログラムを改善します。

3年目

市民向けのプログラムを開発し、イベントを実施します。

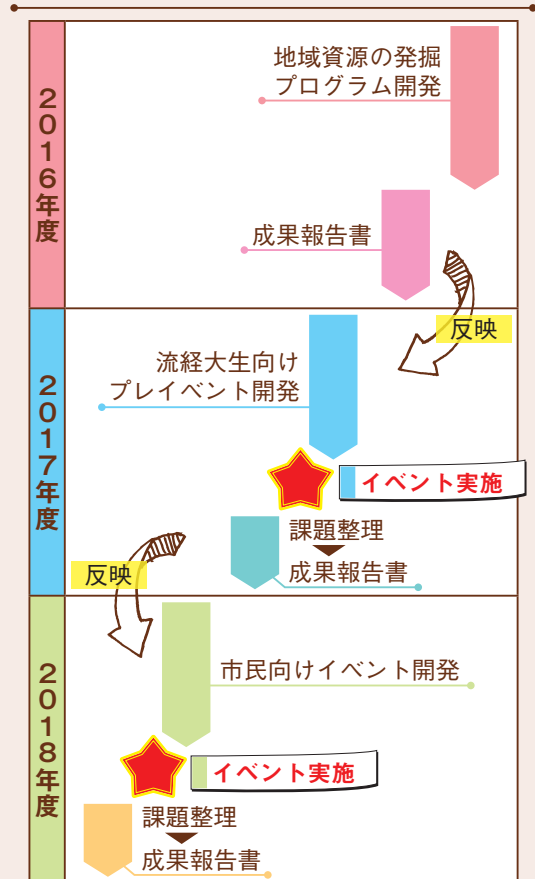
これまでの活動

市内の和菓子店など7店舗を訪問し、製造過程の見学やお菓子の試食・インタビューを通し、お菓子の魅力や歴史などについて、お店の方に教えていただきました。

また、普段歩くことの少ない龍ヶ崎の街中を散策することで、今まで気付くことのなかった龍ヶ崎の魅力を新たに発見することができました。

これまで集めた素材（魅力）や体験したいいろいろなことを市内外の方に分かりやすく情報発信するためのツールや掲載内容について検討が続いています。

活動スケジュール





流経大生の

りゅうRYU散策記



焼き立ての香りがたまりません

米粉のお菓子を作る過程を一から見学させていただきました。お菓子を作る手際の良さは、まさに「職人！」。

普段なら食べることのできない焼き立てアツアツのお菓子を試食させてもらって、その美味しさに感動。

特に、焼き立ての香りが…たまりません。



初めて見た！和菓子とお寿司が一緒に並ぶ姿

訪問させていただいた3店舗の和菓子屋さんにも共通する点はなんだと思いますか。

なんと、巻き寿司などのお寿司が和菓子と一緒にショーケースに並んでいることです。もしかして、龍ヶ崎では常識ですか？

まさにこれは「龍ヶ崎スタイル!？」。

米スイーツは結構深い

お団子のような伝統的和菓子やせんべい、米粉を使った洋菓子まで、米に由来するお菓子にはさまざまなバリエーションがあり、何人もの作り手により龍ヶ崎の中にあふれていました。

また、訪れた全てのお店で感じた「よりおいしいものをお客に」という熱意が、私たちの「わぁおいしい」を支えていると思います。



昭和のファストフード

お店の方にインタビューをして、色々なことを教えていただきました。昔は、お店の奥のスペースでお団子や巻き寿司などを食べるのができたそうです。一人が「昭和のファストフード店だね」とつぶやいたので、全員が笑顔でうなずきました。

異世界空間のような奇跡街

龍ヶ崎駅からのびる商店街を散策していると、とあるお店が気になり、何気にお店の中を覗いてみると、趣深い商品ラインナップに笑顔。よくよく周辺を見渡してみると趣のあるお店や特殊な商品ラインナップのお店など、気になるお店の多さにワクワク。平成生まれの私たちにとって、まるで昭和が凝縮しているような異世界空間が商店街にはありました。

東教授の今後の展望

この授業では、学生たちと龍ヶ崎の面白いところを探してきました。夏休みには、学生たちと「商店街とスイーツ」をテーマに他の市町村でどのような取り組みを行っているか、見学に行く予定です。これを通して、学生たちにはまちおこしについての知見を広め、感覚をブラッシュアップしてもらいます。その上で、秋学期にはさらに多くの方から龍ヶ崎の魅力を教えていただき、来年度の実践に向けた計画を作成していく予定です。



見学店舗

- 御菓子司 国華堂
- 御菓子処 たらだ家
- 伊勢屋餅菓子店
- 鍵林製菓
- おかしの森 プレジール
- 洋菓子の店 アルブル
- チャレンジ工房 どちらて
- ※順不同

この事業は、教育・文化、スポーツ、産業、人づくり・街づくりなどの各分野で、流通経済大学と連携したまちづくりを展開する「龍・流連携事業」の取り組みの一つとして、同大学の学生が3年の期間をかけて当市の体験型観光プログラムを開発するプロジェクトです。市では、この研究・開発に対し、助成金を交付しています。今後、学生が市内のさまざまな場所を訪問し、お話を伺わせていただくことがありますので、その際はご協力をよろしくお願いいたします。

龍ヶ崎市の 空家等の実態について お知らせします



■問い合わせ：交通防犯課防犯対策グループ ☎内線 493

当市では、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づく空家等対策計画の策定をはじめ、計画的な適正管理や利活用などの対策を講じるための基礎資料として、市内に存在する空家等（専用住宅や店舗併用住宅などで、使用されていないことが常態となっている建築物）の件数や分布、それぞれの状況を把握するための調査を行いました。結果の概要をお知らせします。

1 調査の概要

■調査期間

平成 27 年 11 月 18 日～平成 28 年 6 月 29 日

■調査方法

当市全域を対象。調査員による現地調査（公道からの外観目視）で空家等と思われる物件（以下「推定空家等」）を抽出し、その後に物件ごとの所有者に管理状況などについての意向調査を実施しました。

■空家等の判定

推定空家等の抽出は、主に次の項目の判定基準で行いました。

- 表札・名札・看板がない
- プロパンガスボンベが撤去されている
- カーテンがない
- 電気メーターが停止している
- 雑草、立木が繁茂している
- 郵便受けにチラシや DM が大量に溜まっている
- ゴミの投棄・堆積がある など

2 調査の結果

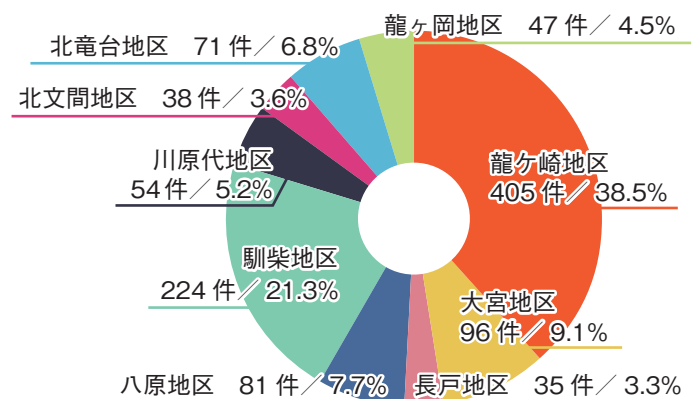
■空家等の総数

市内総建物数 26,465 件のうち、現地調査により 1,051 件を推定空家等と抽出しました。地域別では、龍ヶ崎地区、馴染地区、大宮地区で推定空家等の数が多くなっています。

また、1,051 件のうち、危険家屋等（第三者へ危害を与える可能性あり）と思われる物件は、40 件ありました。地域別では、龍ヶ崎地区が 14 件、大宮地区が 5 件、八原地区・龍ヶ岡地区がそれぞれ 3 件などとなっています。要因の内訳は、「屋根材・外壁材の破損等」が 15 件、「雑草・立木の繁茂」が 7 件、「門・塀の破損」が 6 件などの順となっています。

■地区別推定空家等数および分布割合

地区名	推定空家等数	総数に占める割合
龍ヶ崎	405 件	38.5%
大宮	96 件	9.1%
長戸	35 件	3.3%
八原	81 件	7.7%
馴染	224 件	21.3%
川原代	54 件	5.2%
北文間	38 件	3.6%
北竜台	71 件	6.8%
龍ヶ岡	47 件	4.5%
計	1,051 件	100%



■空家等の特徴

当市は、門・扉や窓ガラスの状態が人口や世帯数・建物数が当市と類似した他市と比較すると、正常である割合が高い傾向でしたが、一方では雑草・立木の繁茂やごみの堆積などが多いといった特徴がありました。

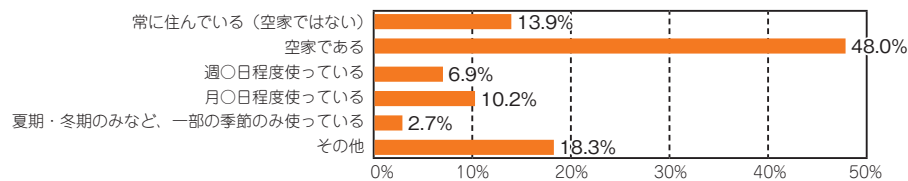
■空家等所有者等に対する意向調査の結果

現地調査の結果、推定空家等として抽出された1,051件のうち、物件が同敷地内に複数ある場合や現地調査後に解体が完了したなどを除く1,003件の所有者などに、調査対象物件の状況や空家となった経緯・今後の活用などについて意向調査を実施し、606件（回収率60.4%）の回答がありました。

①対象物件の利用形態について

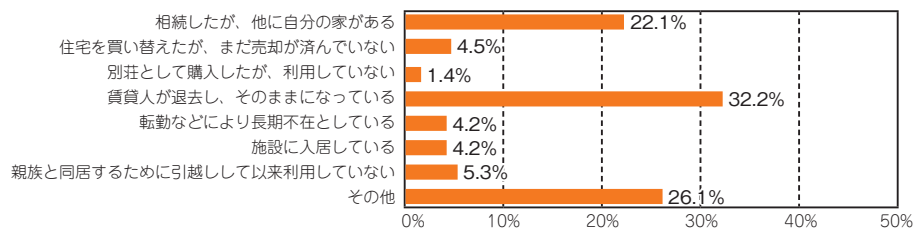
現地調査で推定空家等として判定しましたが、所有者などに実際の利用形態や管理の頻度を伺ったところ、「空家である」が48.0%と最も多く、「常に住んでいる」「月・週数回程度使っている」など利用や管理をしているとの回答が33.7%ありました。

また、「その他」と回答された中には、「売買・賃貸の準備中」「現在貸している」「物置・倉庫である」「見回り管理している」「管理不全である」といったものがありました。



②空家になった経緯について（複数選択可）

空家等の予防や発生抑制・適正管理・さらには空家等の解消への対策を検討するに当たり重要な情報として、空家等となったきっかけを伺いました。「賃貸人が退去し、そのままになっている」との回答が32.2%で最も多く、次いで「相続したが、他に自分の家がある」が22.1%でした。

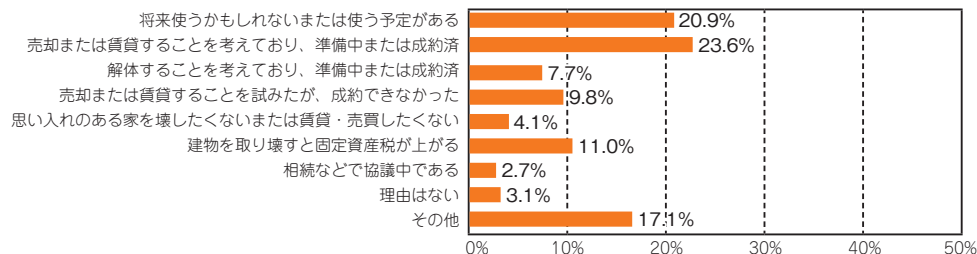


③空家のままとされている理由について（複数選択可）

空家が常態化している（常に住んでいない）理由を伺いました。

「売却または賃貸することを考えており、準備中または成約済」が23.6%、「将来使うかもしれないまたは使う予定がある」が20.9%、「売却または賃貸することを試みたが、成約できなかった」が9.8%と、何らかの活用を考えている方が半数以上（54.3%）存在することが把握できました。

一方、税金や相続などの問題を抱えている方も存在することも把握できました。



市ではこれらの調査の結果を踏まえ、龍ヶ崎市空家等対策推進協議会で空家等の発生抑制・適正管理および利活用策などの視点からの具体的な施策・事業の検討など、今年度中の空家等対策計画の策定に向けて作業を進めています。なお、空家等対策推進協議会の審議の内容は、市公式サイトで公開していますので、ご確認ください。

龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会がスタートしました！

■問い合わせ：教育総務課総務グループ ☎内線 291

当市教育委員会では、市内小中学校の教育環境を整備し、充実した学校教育の実現のため「龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会」を発足し、第1回会合を7月6日（水）に開催しました。審議会の会長には、筑波大学の樋口直宏教授が選任されました。審議会では、当市の児童生徒の生活面・学力面の現状と課題を考えながら、小中一貫教育や市内小中学校の適正配置などについて協議を進めていきます。

第1回会合では、教育委員会から市内小中学校の児童生徒数の推移や将来予測・小中連携の取り組み・不登校児童生徒数の動向などについて報告を行ったところ、多くの委員から「市内の子どもたちがこんなに減少しているとは思わなかった」「龍ヶ崎の新しい学校教育について、議題を限定せず幅広く議論したい」という意見が出されました。本審議会は約2年をかけて協議を行っていく予定で、第2回会合は9月5日（月）に開催します。どなたでも傍聴できますので、ぜひご参加ください。



▲樋口会長（左）に諮問書を提出



小中一貫教育に関する意見交換会を開催します！！

皆さんと一緒に龍ヶ崎市の教育を考えていきたいと思えます。皆さんのご来場をお待ちしています。

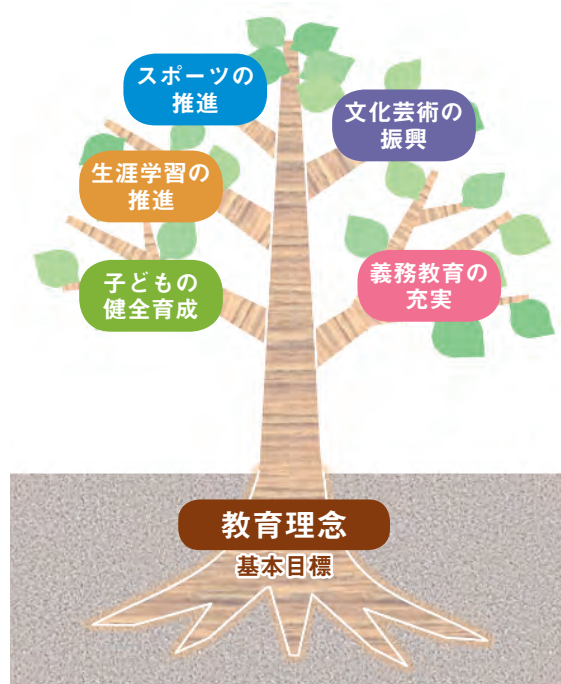
日時 ・ 場所	9月17日（土）	午前 10 時から／八原コミュニティセンター 午後 1 時 30 分から／馴染コミュニティセンター
	9月25日（日）	午前 10 時から／龍ヶ崎西コミュニティセンター 午後 1 時 30 分から／松葉コミュニティセンター

龍ヶ崎市教育振興基本計画の策定を進めています

龍ヶ崎市教育大綱の基本理念「ふるさと龍ヶ崎の現在を担い、未来を拓く 人づくり」の実現に向けた取り組みを推進するため、5つの基本方針ごとに具体的施策および成果指標などを定める、龍ヶ崎市教育振興基本計画の策定を進めています。教育大綱は、当市の教育分野における基本方針で、市長と教育委員会で構成される「龍ヶ崎市総合教育会議」で平成27年度から協議・調整を行ってききましたが、5月27日（金）～6月23日（木）にパブリックコメントを実施し、決定しました。教育大綱やいただいた意見と市の考え方などは、市公式サイトに掲載しています。

また、教育振興基本計画についても、総合教育会議で協議・調整を行っており、7月27日（水）に教育振興基本計画（素案・たたき台）について協議を行いました。総合教育会議の資料や議事録も市公式サイトに掲載しています。

教育振興基本計画は12月を目途にパブリックコメントを実施し、その後、教育大綱と教育振興基本計画で構成される、「（仮称）龍ヶ崎市教育プラン」として取りまとめる予定です。



▲教育大綱の概念図